

# 宮城植物雑記 I

船岡養護学校不忘学園分校 上野雄規

Yūki Ueno : Notes on some Plants of Miyagi Prefecture (I)

「宮城県植物目録」が現岩手植物の会会長一村井三郎先生らの手により、又、「三陸植物誌」が柏木吾一先生らの手によりいずれも青森営林局から出版されて以来、はや40年になろうとしている。

この間両著書は、本県及び三陸地方の植生の代表として多くの研究者に参考とされてきたようだ。しかし、この間、分類学等の進歩によって取扱いの変更されたものが多々見られ、開発・文化の進展が植生に及ぼした影響は大で、外来植物の進入等も著しい。又、両著書は管内国有林内の調査の記録であって、全県を網羅したものとは言い難い。

一方、全国的な著書を見ても、東北地方に於ける分布については種類によって資料の活用不足と思われる所があり、著者によってまちまちなものも見受けられる。

このような事は、古い著書の価値は勿論十分に認めた上での事であり、諸先生方の過去の研究を生かすためにも、細かなレベルでの調査はそれぞれの地元の人々の手によって行なわれなければならないと思う。

宮城県では、1967年に全国一斉に行なわれた天然記念物緊急調査によって、20万分の1植生図が完成、又、昨年度から来春3月までは動植物分布状況調査が行なわれており、生態的な面からの植生は一応明らかにされる。来年1月より本県でも自然環境保全条例が施行されるが、各種調査結果が、今後の宮城県の自然保護及び開発の指針として、又、小中高校の生物教育の基礎資料として最大限に活用し生かされて行かねばならない。

一方、個々の植物については、一部を除いてこれからの調査に待つべき所が多いと思われる。そんな意味で、細やかではあるが、本県の植物分類地理的な面で得た新知見を記録して行きたい。

なお、本記に記録した種類については、標本として国立科学博物館や東北大学理学部生物学教室、その他の標本庫に寄贈してある。

本文に先立ち、常々標本同定等でご指導いただいている国立科博の奥山春季先生、東北大生物学教室の諸先生方、佐々木豊・高橋和吉先生初め会員の皆様には厚く感謝の意を表す。

## 1. オオバノイノモトソウ (スジワタシ)

*Pteris cretica* Linn. (イノモトソウ科) (写真1)

このシダは本州・四国・九州、琉球・台湾等から広く世界の熱帯及び亜熱帯に生えるものだが、まず本州についての分布を見よう。大井<sup>(1)</sup>は関東地方及び越後以西、田川<sup>(2)</sup>は関東と北陸以西、牧野<sup>(3)</sup>は関東以西、杉本<sup>(4)</sup>は金華山・越後弥彦山以南、奥山<sup>(5)</sup>は金華山島から西、と記している。

次に宮城県内では、東北大生物学教室に①金華山島 (S. Sugaya, E. Nakagawa et T. Fujita Oct. 27, 1955 TUS 36950~51・71・80), ②仙台市高館 (京極・林・宗像 June 5, 1959 TUS 36946), ③槻木町(現柴田町槻木) 雨乞 (A. Kimura et S. Sugaya May 17, 1954 TUS 36960) 産の標本があり、その他の記録としては ④松島<sup>(6)(7)</sup>, ⑤角田町 (現角田市)<sup>(8)</sup> (斗蔵山と思われる) があって、金華山島が最北の産地となっていた。

近年、新しい北限地を含む4個所の自生が本県北部沿岸より明らかになった。

⑥石巻市牧山——石巻地方の植生を詳しく研究している佐々木豊先生が見出されたもので、先生が中心となって纏めた「牧山の植物目録<sup>(9)</sup>」に記されている。1971年12月29日、高橋先生と筆者は先生の案内で、牧山南側斜面に位置する多福寺院周辺の自生地を見た。附近には天然のシロダモ林などもあって、オオバノイノモトソウは良く生育していた。

⑦牡鹿町網地島——高橋先生の見出によるもので、1971年6月20日、佐々木先生と共に案内いただき、網地島池ノ浜ダンゴ山附近の沢沿いの群落を見た。自生地は県道の北側にあって環境が良く保たれており、同年8月19日に秋田大学で行なわれた生態学会東北支部大会で発表された。今年7月に出版された著書<sup>(10)</sup>によると『ほかに、常春寺の竹やぶの中にわずかに見られ成育はかなりよい。』との事である。

⑧石巻市小竹——1972年7月2日、高橋先生と筆者が小竹の弁天島向いのスギ林（植林）にある沢で見出した。県道から50m位入った沢沿いには10数種のシダが生えており、中にはゲジゲジシダやイワガネソウなどもあった。この附近には、アカガシ（自然分布？）が多く、イヌガヤ、サンショウ、オオバイボタ等の低木、アマドコロ、ハエドクソウ、ヒトリシズカ、チゴザサ等の下草が生えていて環境は非常に良く保たれている。

⑨女川町出島（新北限）——1972年5月28日、佐々木・高橋両先生と筆者の3人、植生調査で出島に行った時に見出した。群落の面積は上記3箇所より少々狭いが、人の殆んど入らない竹林内なので良く保護されている。附近に見られる低木にはタブノキ、ヤブツバキ、トベラ、イヌガヤ、フジ等が、又、下草としてはジャノヒゲ、フタリシズカ、オクマワラビ、ヤブソテツ、イタドリ、ヨモギ、ヌスビトハギ等が生えている。出島は金華山島より約18km北方に位置し、南北に長く約3.3km、東西に短く最広の所でも約1.5kmにすぎない。海拔は最高の所で87.8mある。島には、寺間と出島の2つの部落がある。

## 2. タマミゾイチゴツナギ *Poa acroleuca* Steud. var. *submoniliformis* Honda (イネ科)

琉球・台湾・朝鮮・中国、日本全国に分布するミゾイチゴツナギの、稈の1～3節が数珠状に肥厚する変種で、同様の形態を備えるものにチョロギガヤ（帰化種）*Arrhenatherum elatius* (L.) Presl var. *bulbosum* (Willd.) Spenner がある。

タマミゾイチゴツナギの本州における分布は、大井<sup>(11)</sup>によると中部以西となっているが、最近、千葉県<sup>(11)</sup>、岩手県<sup>(12)</sup>からも報告されている。

宮城県でも各地から知られており、東北大生物学教室に①志津川町椿島 (S. Sugaya, T. Fujita, et E. Nakagawa May 8, 1955 TUS 33861～62) ②牡鹿町金華山島 (S. Sugaya, C. Kimura, T. Fujita et E. Nakagawa May 27, 1955 TUS 33847) 産の標本があり、又筆者は③女川町江島諸島で見出し写真図と共に報じ<sup>(13)</sup>、高橋先生は④牡鹿町網地島を記録<sup>(10)</sup>している。

1972年5月28日、佐々木・高橋両先生と筆者は、⑤女川町出島（出島部落の畑地周囲）にて採集した。母種も近くに生えており、小さな群落ではあったが、島内を詳しく調べれば見出されると思う。

これで本県では5ヶ所の産地が明らかになったが、面白い事にいずれも北部沿岸の島である。なお、現在の所最北の記録は岩手県大槌町金沢<sup>(12)</sup>になっている。

## 3. ヒメサユリ *Lillium rubellum* Baker (ユリ科) (写真2)

最近出版された「山形県の植物誌<sup>(14)</sup>」に本種の美しい写真が出ているが、淡桃色の花を開くヒメサユリは、日本産ユリの中でも最も高貴な印象を与える。

本種の分布について文献に目を通すと、大井<sup>(1)</sup>は本州（北部）、牧野<sup>(3)</sup>は新潟・山形県、奥山<sup>(5)</sup>、北村他<sup>(15)</sup>、相馬<sup>(16)</sup>は山形・宮城・福島及び新潟県、清水<sup>(17)</sup>、正宗他<sup>(18)</sup>は新潟・山形・福島県と記している。

宮城県内の文献にはまだ記録されていないかも知れないが、七ヶ宿町渡瀬付近では古くから知られていたようで、地元民は“ひめゆり”とか“さゆり”と呼び、

花を摘んできて花瓶等に生けている家もある。

今年の6月4日、相場清一氏ご夫妻の案内で小原方面の採集に行った際、昼食をとるためにおじゃました若松均氏宅で本種の見事な生花を見る事ができた。「親類の主婦が採ってきたのを分けてもらった。」と言う。そこでぜひ自生地を確かめたく思い、10日に再び尋ね、地元民に教えてもらって渡瀬小梁川の自生地を確認する事ができた。

傾斜が30°もあろうと思われる自生地はマンサクやヤマツツジの多いコナラークリ林で、地元民が採った後とみえてなかなか見当らず、唯一本だけが開花中のヒメサユリと会った時は大きな感激だった。この他にも自生地はあるそうだが、白石川の上流に位置する渡瀬は他の2部落と共に、ダムの底に埋まる運命にある。既に工事の一部は始まっており、地元民の反対にもかかわらず、かやぶきの旧家敷もヒメサユリもダム建設の犠牲となってしまう。

#### 4. レンゲシヨウマ (クサレンゲ) *Anemonopsis macrophylla* Sieb. et Zucc. (キンボウゲ科)

日本特産種であって、大井<sup>(1)</sup>は本州(中部)、北村他<sup>(15)</sup>は本州(福島県から奈良県)、奥山<sup>(5)</sup>は本州(東北地方の南部から中部地方)、杉本<sup>(4)</sup>は本州(牡鹿半島〜大和山脈)と記しているが、これまで知られた最北のものは岩手県五葉山<sup>(12)</sup>となっている。

本県については、①雄勝町船越(J. Sugiyama Aug. 18, 1955 TUS 17400)、②川崎町青根(A. Kimura et S. Sugaya Jul. 6, 1950 TUS 17395・98~99・17401~02)産の標本が東北大生物学教室にあり、佐々木先生は③石巻市牧山(Aug. 10, 1966)で採集しておられる。記録としては④志津川町水戸辺<sup>(6)</sup>がある。

1972年9月24日、佐々木・高橋両先生と筆者は⑤翁倉山の北上町要害より入った沢にて小群落を見出し、果実のついているものを採集した。

なお、高橋先生談によると女川町竹ノ浦でも採集しておられるとの事で、県内の他の場所からも見出されるだろう。

#### 5. ヤマブキソウ (クサヤマブキ) *Chelidonium japonicum* Thunb. (ケシ科) (写真3)

中国大陸と、北海道を除く日本に分布する。1972年6月4日、相場清一氏ご夫婦と共に①白石市小原でこの群落に出会った。相場氏が初め見つけ、筆者は初対面であったが名はすくにうかんだ。花の時期は終わりに近かったが、薄暗い林内にクサノオウを何倍も大きくしたような黄花の点々している様は、尊い自然美そのものであった。

過去に知られた本県産の標本は、②仙台市(R. Endo May 8, 1915 TUS 16494)、③秋保町滝原(H. Ohashi May 14, 1961 TUS 16496~97)、④秋保町天守閣自然公園(植物園)(T. Kyōgoku May 15, 1961 TUS 38852)で、東北大生物学教室に入っており、記録としては⑤新川岳<sup>(8)</sup>がある。

本種には、ホソバヤマブキソウ form. *lanceolatum* (Yatabe) Ohwi とセリバヤマブキソウ form. *dissectum* (Fr. et Sav.) Ohwi の2品種があり、前者は仙台市太白山(R. Endo May 10, 1913 TUS 16498)、仙台太白山麓(飯柴永吉 明治45年5月6日 国立科博所蔵——奥山先生のご教示による)が知られ、又、後者は仙台市(R. Endo May 9, 1912 TUS 16493)、仙台(飯柴永吉 明治45年5月6日 国立科博所蔵——奥山先生のご教示による)、秋保町天守閣自然公園<sup>(19)</sup>、大森山<sup>(9)</sup>が知られている。

及川仁先生や佐藤哲郎氏談では、ヤマブキソウの自生地が他にもあるとの事で、これらの植物は岩手県まで入っておらず、今のところ宮城県が北限であろう。

#### 6. コシミノナズナ (帰化種) *Lepidium perfoliatum* Linn. (アブラナ科) (写真4)

欧州原産の帰化植物で日本には1920年代に入ってきた<sup>(20)</sup>。葉に特徴があって、下部のものは2回羽状に細かく分裂、上部のものは卵形〜必臍形で茎を抱く。

東北大生物学教室には、①仙台市広瀬川川原(A. Kimura June 1930 TUS 21735)、②仙台市(Y. Sugihara June 10, 1949 TUS 21734)産の標本が入っている。筆者は1972年5月3日、③白石市鉢森山の折

立牧場の畜舎の周囲にて本種を採集した。付近には次に記すツノミナズナ、クジラグサ、その他の帰化植物が勢い良く繁茂しており、おそらく家畜の飼料か牧草の種子中に混入して来たものと思われる。

なお、本種の東北への帰化は、山形県<sup>(14)</sup>は東根市・南陽市、岩手県<sup>(12)</sup>は盛岡市等となっている。

## 7. ツノミナズナ (帰化種) *Cherispora tenella* (Pallas) DC. (アブラナ科)

欧亚大陸原産で、本州の所々に帰化している。和名の示すように果実が長い角状をなし、茎には特異な腺毛を有するので他と区別しやすい。

筆者は1972年4月、①白石市大畑の東北本線沿い(白石興産会社の裏)の畑地付近で(現在は宅地となったため滅亡)、又、5月3日に②白石市鉢森山の折立牧場(コシミノナズナと同一の場所)にて採集した。後者は他の帰化植物と共に、生育が大変良好であった。

本種は、宮城県では初帰化と思われ、あるいは東北地方でも初めてかも知れない。

## 8. 白花植物 (其1)

### (1) シロバナツユクサ *Commelina communis* Linn. form. *albiflora* Makino (ツユクサ科)

1972年9月13日の朝、出勤の折に白石市大鷹沢大野で本品の群落に出会った。群落は県道に沿って約10mもあり、母種も少し混じていた。

隣の福島県では福島市郊外から報告<sup>(21)</sup>され、又、高橋先生談によると山形県で鉢植えにしたのを見た事があるようだ。

ウスイロツユクサ form. *coeruleo-purpu-rascens* Makino は県内でも所々で見られるようだが、白花品はこれまで仙台市 (R. Endo Sep. 21, 1913 TUS 30909 東北大生物学教室所蔵) が知られているだけである。

### (2) シロバナカキドオシ *Glechoma hederacea* Linn. var. *grandis* (A. Gray) Kudo form. *albiflora* Hara (シソ科)

母種は至る所に普通に生えるが、1972年5月3日、白石市越河五賀の墓地周辺で本品を採集、本県初見出

かも知れない。自生地にはカキドオシも混生していたが、白花種は小群落を作っていた。

### (3) シロバナアカツメクサ *Trifolium pratense* Linn. var. *sativum* Schreb. form. *albiflorum* Alef. (マメ科)

アカツメクサは路傍や草地に最も普通に帰化しているが、その白花品を1972年6月4日に、相場清一氏ご夫妻の案内で白石市小原方面へ採集に出かけた際、小原塩ノ倉にて見出した。場所は県道沿いの農協小原選果場前で、小群落をつくっていた。

福島県では知られている<sup>(22)</sup>が、本県では初見出と思われる。

### (4) シロバナゲンゲ *Astragalus sinicus* Linn. form. *leucanthus* Nakai (マメ科)

仙南地方の春を色どるゲンゲ(レンゲソウ)の白花品で、1972年5月7日、白石市八宮のゲンゲ畑で採集した。畑と言っても植栽したものでなく、地元民の話では、「昨年、ソラマメやトウモロコシをつくったが、その後放ったらかしにしてたらレンゲの畑ができた。4~5年前まではみな植栽して水田の肥料に使っていたが、田植えが早くなったのでこの頃は利用していない。」と言う。一面紫の中に数本の白花は、遠くからでもすぐ目についた。本品はなお、東北大生物学教室に宮床村(現在どこの町になっているかは不明) (R. Endo June 18, 1915 TUS 23690) 産の標本が入っており、又、福島県では会津<sup>(23)</sup>、山形県では成沢<sup>(22)</sup>が記録されている。

## 参考文献 (雑誌名は省略)

- (1) 大井 ('59・'65) : 日本植物誌 (シダ編, 顕花植物編)
- (2) 田川 ('68) : 原色日本羊歯植物図鑑
- (3) 牧野 ('62) : 新日本植物図鑑
- (4) 杉本 ('65・'66) : 日本草本植物総検索誌 (双子葉編, シダ編)
- (5) 奥山 ('68) : 日本野外植物図譜<sup>(24)</sup>
- (6) 木村 ('54) : 宮城県北部の海岸地帯の植物
- (7) 木村・菅谷 ('70) : 松島産植物目録
- (8) 青森営林局 ('35) : 宮城県植物目録

- (9) 石巻市教研理科研究会 ('65) : 石巻附近の植物2  
一牧山の植物
- (10) 高橋 ('72) : 網地島植物誌
- (11) 千葉県生物学会 ('70) : 千葉県植物目録
- (12) 岩手植物の会 ('70) : 岩手県植物誌
- (13) 上野 ('72) : 江島諸島植物誌
- (14) 結城 ('72) : 山形県の植物誌

- (15) 北村・村田他 ('64) : 原色日本植物図鑑(上中下)
- (16) 相馬 ('70) : 東北地方に於ける植物の分布
- (17) 清水 ('71) : 日本のユリ
- (18) 正宗他 ('69) : 日本の植物8巻
- (19) 京極 ('63) : 天守閣自然公園植物目録
- (20) 長田 ('72) 日本帰化植物図鑑



写真1 オオバノイノモトソウ *Pteris cretica*  
の新北限 ('72.5.28 女川・出島)

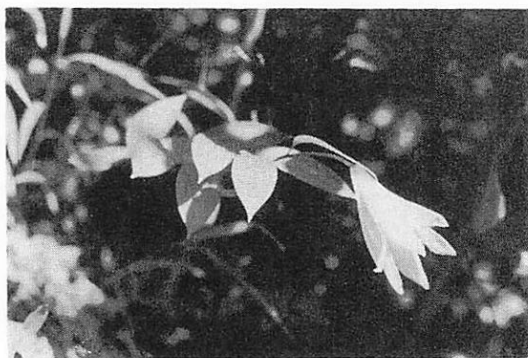


写真2 ヒメサユリ *Lillium rubellum*  
( '72.6.10 セケ宿・渡瀬)



写真3 ヤマブキソウ *Chelidonium japonicum*  
( '72.6.4 白石・小原)



写真4 コシミノナズナ *Lepidium perfoliatum*  
( '72.5.3 白石・鉢森山)